

(3) 予測結果

① 造成等の施工による一時的な影響

ア) 個体の消失の有無

表-6.9.2(4)に予測対象種である71種の確認状況及び造成工事による生息個体の消失の有無についてとりまとめた。このうち改変区域内では確認されなかった重要な種は爬虫類1種、鳥類10種、昆虫類8種、甲殻類2種、陸産貝類1種の合計22種である。また、改変区域内で確認された重要な種は、哺乳類1種、爬虫類3種、鳥類19種、昆虫類13種、甲殻類4種、陸産貝類8種、クモ類1種の合計49種である。

改変区域外のみで確認された22種(サキシマバイカダ、カイツブリ、クロツラヘラサギ、ツルクイナ、シロチドリ、ツバメチドリ、オオアジサシ、エリグロアジサシ、コアジサシ、カワセミ、アカモズ、ヒメイトトンボ、チビカワトンボ、ヒメホソサナエ、ヒナヤマトンボ、リュウキュウマツムシ、ヒメフチトリゲンゴロウ、コガタガムシ、イワカワシジミ、オオナキオカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリ、ヤエヤマタニシ)については、造成工事による生息個体の消失はないものと予測される。

改変区域内で確認された49種(ヤエヤマオオコウモリ、セマルハコガメ、キシノウエトカゲ、サキシマアオヘビ、リュウキュウヨシゴイ、ズグロミゾゴイ、チュウサギ、ムラサキサギ、ミサゴ、リュウキュウツミ、チュウヒ、ハヤブサ、ミフウズラ、オオクイナ、リュウキュウヒクイナ、セイタカシギ、キンバト、リュウキュウコノハズク、リュウキュウサンショウクイ、アカヒゲ、ヤエヤマシロガシラ、リュウキュウキビタキ、イシガキシジュウカラ、マサキルリモントンボ、コナカハグロトンボ、クロイワカワトンボ、ヤエヤマサナエ、ミナミトンボ、マダラアシミズカマキリ、ヤエヤマクビナガハンミョウ、トビイロゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、ヤエヤマノコギリクワガタ、ヤエヤマミツギリゾウムシ、ナガオオズアリ、スミナガシ、オカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニ、ヤエヤマアツブタガイ、ヤエヤマヒラセアツブタガイ、ホラアナゴマオカチグサガイ、ノミガイ、スタアンズギセル、ヨワノミギセル、イッシキマイマイ、クロイワヒダリマキマイマイ、イシガキキムラグモ)のうち、20種(ヤエヤマオオコウモリ、リュウキュウヨシゴイ、チュウサギ、ムラサキサギ、ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサ、ミフウズラ、オオクイナ、リュウキュウヒクイナ、セイタカシギ、キンバト、リュウキュウコノハズク、リュウキュウサンショウクイ、アカヒゲ、ヤエヤマシロガシラ、リュウキュウキビタキ、イシガキシジュウカラ、クロイワカワトンボ(成虫)、スミナガシ)については飛翔能力が高く、移動能力が大きいこと、段階的に造成を行い改変区域周辺には移動可能な二次林や草地が残存することなどから、造成工事による生息個体の消失はないものと予測される。

改変区域内で確認された49種のうち、27種は地上徘徊性あるいは水生(ゲンゴロウ類やトンボ類の幼虫など)であり、移動能力が小さいことから、造成工事により改変区域内の生息個体が消失することが予測される。移動能力の小さい種は、爬虫類3種(セマルハコガメ、キシノウエトカゲ、サキシマアオヘビ)、昆虫類11種(マサキルリモントンボ(幼虫)、コナカハグロトンボ(幼虫)、ヤエヤマサナエ(幼虫)、ミナミトンボ(幼虫)、マダラアシミズカマキリ、ヤエヤマクビナガハンミョウ、トビイロゲン